

名古屋西南ロータリークラブ Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ

糸継続は力、協力は強さ力

例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

クラブ会報広報委員長 二俣景一



2006-07 年度 R.I 会長
ウィリアム B. ボイド

承認 1995.3.28
会長 安江英雄
幹事 後藤 敬
事務局 名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP http://rc.nagoya-seinan.org/

第561回例会 No. 21 平成18年12月14日(木) 晴	
ロータリーソング	「我等の生業」
出席報告	会員48名中31名出席
出席率	68.89% 出席計算人数45名
修正出席率	11月30日 95.56%
スピーカー	下倉久美さん
ゲスト	長谷川龍伸さんゲスト 柴田達志氏

会長挨拶 安江英雄

「じゃがいもについて」

じゃがいもの栽培の歴史は古く、現在の栽培種のもととなったのは紀元前に南アメリカのペルーとボリビア国境にあるチチカカ湖周辺にあったものだとされています。15世紀にコロンブスあるいはインカ帝国を滅亡させたピサロがヨーロッパに持ち帰って伝え、18世紀にはヨーロッパ全域に広がって栽培されるようになったといわれています。

日本での栽培は宝永3年(1706)に北海道の瀬棚で松兵衛という人が植えたという記録が最古といわれる。本州では明和年間(1764~72)に代官 中井清太夫が甲斐で奨励し、「清太夫薯」として今も残っているといわれます。ところで、じゃがいもといえば肉じゃがを思い出しますが、この料理の起源はわりあい有名なので諸説をまとめておきます。考案者はあの東郷平八郎元帥、明治4年イギリスに留学した東郷はビーフシチューの味がいたく気に入った。帰国後、艦上食として作らせようとしたが、当時の海軍にはワインもデミグラスソースもない、そこで料理長が醤油と砂糖と牛肉とジャガイモとタマネギを使って肉じゃがを発明し、これが栄養バランス的にも優れていたのもそのままメニューとして定着したものだといわれます。日本海軍はその後、肉じゃがのほかにカレーライスを導入、カレーライスのほうが後始末が簡単なこと、船上生活では曜日感覚が鈍くなるので、曜日感覚の維持という理由もあり、毎週休日の前日の夕食をカレーライスにしたということです。

ところで、ジャガイモの語源ですが、元は「ジャガタイモ」と呼ばれていました。私達の子供の頃もジャガタイモと呼んでいました。「ジャガタイ」とはジャカルタの旧称、日本ではジャワ島と混同しており、オランダ船がジャワ島から船載した品物にはすべてジャガタの名を付けていました。「ジャガイモ」はオランダ語由来ですが、日本に運ばれたのは、鎖国前の慶長3年(1598)です。

ですから栽培されるまでには 100 年もかかったわけですから。

ニコBOX

本日は学芸員の下倉久美さんに美術館の仕事について卓話をさせていただきます。宜しくお願い致します。
安江会長、後藤幹事、川原、渡邊、浮貝、矢野、水野、藤田、西川、二俣、藤野、加藤、和田、松尾、岩田、丘、日下、中川 (敬称略)

長谷川龍伸さん 本日はゲストスピーカーとして名古屋ボストン美術館学芸員の下倉久美様を、またゲストとして(有)アーキテクト・スタイル代表取締役社長で建築デザイナーの柴田達志様をお招きしました。よろしくお祈りします。

鈴原さん 12月は家族の誕生月です。お祝いを有難うございます。

大平さん 歳末ともなり、暖かい気候にも恵まれて落ち着きを感じます。

北折さん 先月はまるまる休みました。お許し下さい。

川崎さん 今年一年間お世話になりました。忙しいので今年は今日までです。ありがとうございました。

本日合計 49,000円

ゴルフ会成績発表

平成18年12月14日(水)

グレイスヒルズカントリー倶楽部



順位	氏名	GROSS	HD' CP	NET
優勝	森田正樹	85	10	75
2	川崎美恵子	102	25	77
3	鈴原志津子	106	28.8	77.2

4	深澤 邦	112	31.2	80.8
5	藤野正敏	88	7	81

(...元会員、 ...会員ご家族)

次回H' cap

森田正樹 8
川崎美恵子 22

5ヵ年皆出席表彰

出席委員会 委員長 日下 宏次

11月29日に5ヵ年を迎えられた北折守男さんに、会長からルビー入り会員章を贈呈いたしました。



卓 話

「美術館の仕事 あれこれ」
名古屋ボストン美術館 学芸員 下倉久美



ご紹介：多摩美術大学芸術学科卒業
英国ニューキャッスル大学大学院博物館学科留学
2003年5月より当館学芸員

< 担当した企画展 >

- ・ デューラー版画展(2003年11月)
- ・ レーンコレクション・アメリカンモダニズム「オキーフとその時代」展(2004年10月)
- ・ 自然へのまなざし「尾張の本草学者 伊藤圭介」展(2005年10月)
- ・ 「ヨーロッパ肖像画とまなざし 16-20世紀の顔」展(現在開催中)

卓話原稿は割愛させていただきます。

次回例会のご案内

12月28日(木)、1月4日(木) 休会

1月11日(木) 第563例会 12:30～シャンパン乾杯
「年初め例会～新春の調べ～」チャリティーオークション

100万ドル例会報告

ロータリー財団委員会 委員長 河原照忠

上半期100万ドル例会の寄付額をご報告いたします。

7月13日例会

出席数38名 × 食事差額1,000円 = 38,000円

10月19日例会

出席数32名 × 食事差額1,000円 = 32,000円

12月14日例会

出席数33名 × 食事差額1,000円 = 33,000円

ご協力有難うございました。

理事役員会議事録

12月7日(木) 12:00～例会場にて

出席者 安江、池井戸、渡邊、大平、中村、水野、藤野、磯部、近藤、後藤、二俣

- 議題
1. 退会承認の件 中野雅司さん
 2. 退会に伴う理事役員承認の件
 3. 会計報告 7～10月
 4. その他

『友』インターネット速報 2006年12月19日 No.264

奨学生が長距離を移動しながらエイズへの警鐘

エイズで両親を失った子どもたちの現状を訴えるため、ロータリークラブが支援する国際的な学生らのチームが南アフリカのヨハネスブルクからケープタウンまでの2,010kmを歩いています。アフリカでは現在、エイズで両親を失った子どもの数が1,200万人いるとされ、このままでいけば2010年(サッカーワールドカップが南アフリカで開催される年でもあります)までにその数が2,000万人に達する、と推測されていることから、彼らは歩く距離を2,010km、旅行期間を20日間と決めて、12月2日に出発しました。

5人の参加者はヨハネスブルクのワイトウォーターズランド大学の学生で、そのうち4人がロータリー財団国際親善奨学生。日本の前川生民さん(第2550地区、スポンサークラブ・宇都宮90RC)も参加しており、その途上、仲間とともにロータリーが支援するプロジェクトの資金を、子どもたちのために集めています。

前川さんは「この旅行を通して、エイズに感染した、または感染の恐れがある南アフリカの人たちに命の大切さを訴えていきたい、特に若い人たちにエイズに対する意識を高めていってもらいたい」と語っています。

『友』ホームページ情報

『友』ホームページでは、2006年10月23～27日、アメリカ・イリノイ州エバンストンで開催された、国際ロータリーのロータリー財団管理委員会の会合での決定の抄録を掲載しています。『友』ホームページ(日本語)

<http://www.rotary-no-tomo.jp/jpn/index.html>

の「ロータリーニュース」にある「ロータリー財団管理委員会の決定事項の抄録(2006年10月)」をクリックして、ご覧ください。